

学部・研究科名地域環境科学部

学部長・研究科委員長名小梁川 雅

学科名・専攻名森林総合科学科

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 講じている ☐ 一部講じている ☐ 講じていない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☐ している ☒ 一部している ☐ していない	☐ 行っている ☒ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	現在の学科の教育・研究上の目的、教育目標、カリキュラムポリシーに基づき科目を配当している。	学科および各教員が協力して、最初に学習意欲を高め、徐々に専門的な教育へと展開している。 試験の結果や授業評価、授業中の学生の反応などをもとに、工夫を行っている。学外実習や実習施設の充実を学科や研究室で行っている。	教員が成績評価の基準、採点後の試験やレポートの返却、試験の答案例の明示などを行っている。	3，4年生は全員が研究室に所属し、学生と教員の距離が近いため、単なる知識、技能の習得のみならず、ディプロマポリシーに重視している「問題発見能力」、「問題解決能力」、「コミュニケーション能力」の習得レベルを指導教員が把握し、評価している。	学部の教育点検委員会、学科内の教育点検実務委員会、施設利用実務委員会を設置し、現状の問題点を抽出したり、改善、向上策を検討、実施している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・学生は2年時に研究室を選択し、3年時に各研究室へ所属し専攻演習を受講し、4年時の卒業論文へとつなげる。	【長所】 フレッシュマンセミナーで学習意識を高めるなどの工夫をしている。 学外オリエンテーションでは川場村に一泊して、森林で学ぶことを紹介している。	【長所】 教育の評価については、各担当教員が責任をもって実施している。実習科目については、オリエンテーションを行い、基準についての説明をしている。	【長所】 なし	【長所】 なし
	【特色】 ・専門的な知識や技能の習得。	【特色】 できるだけ現地に行き現状を学ぶ。	【特色】 なし	【特色】 なし	【特色】 なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・研究課題が細分化、専門化してきていて、学科全体の講義や実習との関連付けが必要。	【問題点】 学内での講義などが多く、学外への調査研究が十分にやりにくい状況である。	【問題点】 なし	【問題点】 各自の判断に主として任せ、学科としての確認を行っていない。	【問題点】 各自および学科で点検評価を行っているが、具体的な問題解決や対応策へと至っていない。
	【課題】 ・カリキュラム改正に向け作業を行う。	【課題】 カリキュラムと制度の両面から改善をおこなう。	【課題】 なし	【課題】 全体の関連性について検討中である。	【課題】 将来構想委員会で新たな方向性については検討している。
根拠資料名	①学科配当科目表 ②森林総合科学科研究室紹介	③フレッシュマンセミナー実施内容 ②森林総合科学科研究室紹介	シラバスに明記している。	シラバスに明記している。 ②森林総合科学科研究室紹介	④学科設置の各種委員会構成 教育点検実務委員会＊ 施設検討実務委員会議事録記録＊

＊学科会議で検討し議事録としていて抽出不可能

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☐ 行っている ☒ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	一般入試、センター試験利用入試の受験生に対しては、大学案内、大学ホームページ、オープンキャンパス、学科パンフレットなどでアドミッションポリシーを公開している。また、指定校をはじめ、一般推薦入試の受験生を送り出す可能性のある高校には、出前授業や学校訪問を積極的に実施している。	学科の中高生応援実務委員会では、入学制の受験制度、出身高校などのデータを収集、分析し、指定校の見直し、学校訪問先の選択、学科パンフレットや学科PRパネルなど広報資料の修正、作成を行っている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・多分野の教員が合同で検討して問題作成を行っている。	【長所】 ・入試時に、受験動機、学科パンフレットやキャンパス見学会への参加などについて確認をしている。
	【特色】 ・入試時にアドミッションポリシーを配布して確認をしている。 採点基準、面接項目は、事前に確認して実施している。	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・分野名変更を行い、研究室の分野体制を変更したので、具体的な指導体制を検討する。	【問題点】 ・障がいをもっている学生への対応を行っている。
	【課題】 ・分野名変更、研究室体制の変更に伴う具体的な方針の検討と確認をする。	【課題】 ・様々な対応を行うため教員の負担となっている。
根拠資料名	出題委員の選出資料＊ ⑤入試時の面談資料	⑤入試時の面談資料 指定校の見直し＊ 学校訪問等の確認＊

＊学科会議で検討し議事録としていて抽出不可能

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☐ している ☒ 一部している ☐ していない	☐ している ☒ 一部している ☐ していない	☐ 行っている ☒ 一部行っている ☐ 行っていない	☒ つなげている ☐ 一部つなげている ☐ つなげていない	☐ 行っている ☒ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	学科の教育組織の編制方針のとおりであり、学科内で認識を共有している。より効果的な教育のために、将来分野の編成の変更を検討している。	分野、研究室の編制見直し、教員の配置や年齢構成、将来的な人事計画（昇格、新規採用等）などを拡大主任会等で検討している。	任期制教員の面談と確認、昇格に対する現状や希望の確認を随時行っている。 教員2名が任期制教職員から専任化教職員へと昇格予定。 教員1名が助教から准教授へ昇格	国外依命留学など中堅・若手教員の資質向上を図るための計画を作成中である。そのための分野・研究室教員間の協力体制も検討している。 任期制教員に対しては、定期的に面談を行い、状況を確認している。 教員1名が依命留学を申請している。	分野や研究室体制については、将来構想委員会などで検討している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・学科の分野名を段階的な分野設定から視点や手法に基づく分野へと変更しつつある。	【長所】 ・拡大主任会で、人事計画については検討している。	【長所】 ・拡大主任会で、人事計画については検討している。	【長所】 ・	【長所】 ・なし
	【特色】	【特色】 ・森林を取り巻く総合的なアプローチが可能である。	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 学科の分野名変更、研究室構成の変更のため、具体的な内容については、検討している。	【問題点】 ・学科の分野名変更、研究室構成の変更のため、具体的な内容については、検討している。	【問題点】 ・若手教員の負担が多くなってきているので、全体で分担するように心がけている。	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・学科の分野名変更、研究室構成の変更のため、具体的な内容については、検討している。
	【課題】 ・分野名変更、研究室構成変更に伴う新体制の構築	【課題】 ・分野名変更、研究室構成変更に伴う新体制の構築	【課題】 ・教育業績だけでなく、大学や学科への貢献度や学生対応なども考慮する。	【課題】 ・なし	【課題】 ・分野名変更、研究室構成変更に伴う新体制の構築
根拠資料名	⑥分野名変更資料	拡大主任会開催＊	拡大主任会開催＊	任期制面談記録＊ 海外依命留学資料＊	⑥分野名変更資料

＊学科会議で検討し議事録としていて抽出不可能

学部名 地域環境科学部
学部長名 小梁川 雅
学科名 生産環境工学科

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 講じている ☐ 一部講じている ☐ 講じていない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	当学科では、農業工学の学問分野を基礎として、農業土木学由来の2分野と農業機械学由来の1分野、それに情報工学由来の1分野の計4分野、さらに各分野は2つの研究室で構成される。授業科目には、分野共通の基礎教育科目と分野毎に開講される専門科目、研究室毎に開講される演習科目がある。	1年次には学科共通の数学、力学系科目を必修科目として配置し、2年次後期からは分野毎に開講する実験科目が配置され、専門基礎教育を行っている。3年次からは、研究室毎の専門科目、実験・演習科目が配置され、高い専門性が必要とされる就職活動や卒業論文研究へと繋げている。	成績評価の基準はシラバスに明記し、定期試験については正答の開示を行った上で、希望学生には答案を返却している。専門教育では、実験レポートの添削と返却を実施し、卒業研究については、学科全体で行う発表会への参加を義務づけている。これらを通して学位授与に相応しい人材育成を行っている。	ディプロマポリシーに基づいて配置された必修科目、基礎専門科目、専門科目、研究室活動関連科目、卒業論文研究関連科目が、有機的に連携するように配置されている。分野や研究室で実施している科目については教育改善委員会で横断的に学習成果の確認を行っている。	学科内に、教育点検委員会、力学関連教育検討委員会、情報関連教育検討委員会、測量関連教育検討委員会、技術者教育検討委員会、教育システム評価委員会等を配置している。これらの委員会において、定期的に学生の理解度、習熟度等について把握し、恒常的に教育の改善と向上に取り組んでいる。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・専門教育への導入を緩やかに、かつ効果的に行うことが可能である。	【長所】 ・専門性を活かせる業種に人材の輩出が可能である。	【長所】 ・向上心やモチベーションの高揚に繋がる。	【長所】 ・研究室で実施する専門教育が充実する。	【長所】 ・教員間の情報交換によって個々の学生に対応した効果的な教育が可能である。
	【特色】 ・①分野分け、②研究室分け、③教員分け、と段階的に専門性を高める形で教育を行っている。	【特色】 ・地方の公務員（農業土木関係）への就職率が高く、地域の活性化や地域創成に関与する人材育成を行っている。	【特色】 ・個々の学生の学習成果に関してフィードバックできる体制となっている。	【特色】 ・専門教育の成果を活かして就職する学生が多い。	【特色】 ・個別面談も実施しており、個々の学生に対応した効果的な教育が可能となっている。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・1教員が担当する人数を均等にするため、学生の希望に添えない場合がある。	【問題点】 ・関東圏のみならず地方出身の学生を確保しないと、地方への人材輩出が継続できなくなる。	【問題点】 ・答案の返却によって過去問が流出するため、授業全般に対して幅広く学習する姿勢が低下する。	【問題点】 ・編入生が低学年の必修科目を履修する場合、履修の順序の逆転が起き、理解が難しくなる場面がある。	【問題点】 ・超過勤務の原因になる。 ・コミュニケーション障害と思われる学生が増加傾向にあり、個別の対応に時間を要することがある。
	【課題】 ・学生の希望に偏りが生じた場合、成績や修学意欲等に基づき配分するため、成績の悪い学生の学習意欲を更に低下させてしまう場合がある。	【課題】 ・地方出身の優秀な学生の確保が課題である。	【課題】 ・学生のモチベーションを高揚させ、維持できる授業内容に工夫していく必要がある。	【課題】 ・各種の履修モデルに基づいて学生に履修させることが課題である。	【課題】 ・教育熱心な一部の教員に労働荷重がかかる。 ・学力が伴わない学生に対応する時間が増加傾向にある。
根拠資料名	分野分けアンケート（工学 001.pdf） 分野名簿（工学 002.pdf）	指定校リスト（工学 003.pdf）	ポートフォリオの内容（工学 004.pdf）	就職先リスト（工学 005.pdf） 履修モデル（工学 006.pdf）	委員会活動報告（工学 007.pdf）

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☐ 行っている ☒ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	本学の入試制度は、センター試験利用型入試（3科目型、4科目型）、一般入試の他に一般推薦、指定校推薦、優先入試等がある。このうち、指定校推薦の指定校の選抜は学科に委ねられている。当学科では、学科における教育・研究・就職等の特徴を鑑み、地方の高校から優秀な学生を採用すべく、指定校の選抜を毎年見直し実施している。推薦・優先入試における入学者の選抜に対しては、学科が独自で小論文、面接の内容を決定でき、学科長および4つの分野に所属する教員を適宜配置したチームによって、採点、面接を実施している。試験終了後は、全分野の教員により合否判定を行っている。センター利用型、一般入試についても、合否判定は学科の全分野から教員が参加して行っている。	推薦系の入試制度においては、受験生に対し、面接試験時にアドミッションポリシーの理解度の確認を行って、ディプロマポリシーとのミスマッチを避けるように心がけている。また、入学後の学生意向を、1年生に対して前学期1回、後学期1回、実施している個人面談で、調査した結果を踏まえ、学生受け入れの適切性について改善・向上を行っている。一般入試に関しては、大学ホームページや大学案内の記載内容の見直し、広報活動でのアピール項目の見直しで対応している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・地方出身の優秀な学生を東京農業大学生産環境工学科で教育して地方で就職させる、まさに‘人物を畑に還す’という本大学のポリシーに準じるものである。	【長所】 ・様々な入試制度を時間差で実施していることから、広報については柔軟に対応できている。
	【特色】 ・様々な入試制度を併用することによって、同じクラスや同じ班に異なる知識や経験を有した同期生と共存することとなる。この経験は、在学期間のみならず社会に出てからも重要な意味を持つと考えられる。	【特色】 ・学科で独自で学年末に実施している満足度調査では、個人面談の導入等の教育改善に伴い、満足度が上がる傾向が見られる。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・一般推薦、優先入試の定員は毎年若干名の見直しはあるものの、応募者の人数は年変動がある。また、5,000校を越える高校の中から指定校を選抜し、維持していく業務は担当者の大きな負担となっている。	【問題点】 ・アドミッションポリシーを正確に伝えるための広報活動を適性に、かつタイムリーな話題を交えて広報していくことには、多大な労力を要する。こうした広報活動は、担当者の大きな負担となっている。
	【課題】 ・一般入試での高得点取得者は東京近郊の出身者であり、学科の専門性、求人の地域性にそぐわない学生構成となっている。指定校推薦によって地方出身の優秀な学生を確保することと、受験倍率の維持が課題となっている。	【課題】 ・授業について行けないという理由で退学する学生や、本学科から他学科に転科する学生が存在する。
根拠資料名	受験者数集計表（工学 008.pdf）	大学案内（工学 009.pdf） 満足度調査結果（工学 010.pdf）

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☒ つなげている ☐ 一部つなげている ☐ つなげていない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	4分野8研究室体制は、平成10年の学部改組の時点で打ち出した体制で、現在は、1研究室2名の教員体制となっている。今後は、1研3人体制への移行を目指している。学生は、2年後期に分野を選択し、3年前期に研究室を選択する。3年後期には、教員の選択を行い、学生数が段階的に分割されるシステムとなっている。	学科内に配置された4つの研究分野は、生産環境工学の学問体系を背景としたもので、取り扱うべき研究課題を網羅的にカバーできる構成としている。1分野当たり4名、1研究室当たり2名の教員の配置は、学科のカリキュラムとリンクした体制でとなっている。	教員の退職や転属に伴って欠員が生じた場合には、直ちに枠取り申請を実施し、適切な時期に適切な年齢構成になるように公募で補充人事を行っている。昇格については、業績調査を行い学科教授会において審議を行っている。研究、教育、管理の各項目における業績が学科の昇格基準に達した教員については、直ちに昇格の申請手続きを行っている。	大学の制度として、依命留学の機会が与えられている他、技術者の養成に携わる上で必要となるJABEE講習会等への参加を補助している。また、学科内の教員相互で行う授業視察や非常勤講師懇談会の開催により、教員同士による意見交換を行っている。	教員が授業視察を行い、書面にて意見交換を行って、授業の改善に向けた取り組みについて授業担当者が検討するシステムを構築している。また、学生が実施した授業評価アンケートの結果に対して、教員が改善に向けたコメントを付し、全教員でそれを回覧している。卒業生や技術士会会員で組織される教育システム評価委員会を年に1回開催し、社会に要求される学生の育成に向けた教育改善を行っている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・学生を卒業論文担当教員(18名)に振り分けることにより、学科の幅広い研究分野をカバーする体制を作ることができる。	【長所】 ・多数の学生を均等に配置することで、社会が要求する多様な人材を過不足なく輩出することができる。	【長所】 ・透明性の高い人事を行うことができている。	【長所】 ・教育改善委員会が週に1回開催され、教育改善を目指した議論を通して、教員の資質向上に向けた組織的な取り組みが実行されている。	【長所】 ・学科の教育や組織を客観的に評価できるシステムが構築されている。
	【特色】 ・各教員が自身の研究分野を継続でき、学生にも継承できる。	【特色】 ・学科の守備範囲を適切に維持しながら社会のニーズに応えている。	【特色】 ・本学では職階毎の人事枠の規定はないことから、基準さえクリアすればすぐに昇格人事が行える体制となっている。	【特色】 ・技術者教育を基本とした教員および教員組織の改善や取り組みがなされている。	【特色】 ・技術者教育を基本とした教員および教員組織の改善や取り組みがなされている。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・学生の希望に偏りが生じる場合がある。	【問題点】 ・学生の希望に偏りが生じ、希望に添えなかった学生のケアが必要となる。	【問題点】 ・業績評価の中で過去5年間の論文数を問う項目があり、作物等を研究対象としている場合、不利な場合がある。	【問題点】 ・私学協会でのFD改善に向けた催しが開催されているが、時間的な制約上、参加することが困難となっている。	【問題点】 ・これまでは、大きな問題は見られない。
	【課題】 ・希望した教員に付けなかった学生に対するケアが課題である。	【課題】 ・学科運営業務を効率的に配分することが課題である。	【課題】 ・教員の専門性における多様性を確保することが課題である。	【課題】 ・新しい教育法について修得する研修会等が実施できていない。	【課題】 研究室の教員3名体制への移行に伴う課題の抽出ができていない。
根拠資料名	分野分けアンケート(工学001.pdf) 卒論担当者・テーマ一覧(工学011.pdf)	各種委員会名簿(工学012.pdf)	業績調査アンケート(工学013.pdf) 学科教員年齢構成表(工学014.pdf)	各種委員会名簿(工学012.pdf)	各種委員会名簿(工学012.pdf)

学部	地域環境科学部
学部長	小梁川 雅
学科名	造園科学科

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ 講じている	☒ 講じている	☒ 行っている	☒ している	☒ 行っている
点検項目に対する 現状説明	・造園科学科の授業科目は、第三者機関である日本技術者教育認定機構（JABEE）による認定を基本とし、自然科学と社会科学を包括した造園学の総合的かつ実践的教育を目指し、自然との共生社会・循環型社会等への対応や本学科の方針をふまえて各科目に対応する具体的な学習・教育到達目標として、8項目を設定している。	・前期、後期の学年ガイダンスにおいて「学習教育到達チェック」を学生個々に実施してもらうことで、「学生の学習目標達成度」の自己評価と把握が実施できる。	・造園科学科 jabee ワーキング「授業のファイル」の作成・保管・点検を通じ、成績評価、単位認定及び学位授与が適切に運用されているかが確認できる。	・学生自身が授業科目における目標達成度を十分に理解できるように、成績評価の基準を明示するとともに、答案やレポートの返却を行っている。また、前期・後期の学年ガイダンス時には、各学生による目標達成度チェックを実施し、達成度に応じた学生への学習指導を行っている。	・点検評価のため、学生による授業評価、卒業生からの意見集約、定期的な学科教員会、非常勤講師・客員教授を含めた「教員連絡会」を通して、授業担当者間において相互理解を図るとともに、現状認識と点検評価、改善の方向の検討を行っている。
現状説明を踏まえた 長所・特色	【長所】 ①「環境計画・設計分野」、「ランドスケープ資源・植物分野」、「景観建設・技術分野」の3 分野の専門科目を基幹とした構成、②上記3 分野の専門科目の分野横断・総合化的科目の講義・実習・演習と基礎と体験的学習科目から応用・将来の進路、実社会のニーズに即した専門科目の選択が可能な秩序を持った段階的な構成に加え、③地域環境科学部の学部共通科目などと連動した複合的・総合的なカリキュラム構成をとることにより、先鋭化をはかることが大きな特色となっている。	【長所】 ・学生個人による「学習教育到達チェック」を行うことで、学生各自の学習状況を教員が把握できる。 ・日本技術者教育認定機構(JABEE)による教育点検に合致している。 ・JABEE認定のほか「樹木医補」、「測量士補」、「自然再生士補」の「資格認定」に対応したプログラムの他、所定の科目を履修、単位を修得し、卒業後一定の実務経験を経て「受験資格」が与えられる「造園施工管理技士（2 級）」、「土木施工管理技士（2 級）」も提供し、学生の学習活性化強化をも目指している。	【長所】 ・「授業のファイル」の作成・提出により、授業シラバスの 15 回の定期的点検、成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているかを教員相互が点検することが可能となる。	【長所】 ・学生個人による「学習教育到達チェック」を行うことで、学生各自の学習状況を教員が把握できる。 ・造園科学科 jabee ワーキング「授業のファイル」の作成・点検を通じ、成績評価、単位認定及び学位授与が適切に運用されているかが確認できる。	【長所】 ・新年度に非常勤講師・客員教授を含めた「教員連絡会」を通して、学科の教育課程及びその内容、方法の適切性や社会のニーズとの関連性などを学科教員が認識でき、点検評価、改善の方向性の検討を相互に実施できる。

平成 30 年度 基礎的事項に関する点検・評価報告書

様式 1

	【特色】 ・第三者機関の審査に耐えうる教育体制の点検を行なえる。	【特色】 ・第三者機関の審査に耐えうる教育体制の点検を行なえる。	【特色】 ・第三者機関の審査に耐えうる教育体制の点検を行なえる。	【特色】 ・第三者機関の審査に耐えうる教育体制の点検を行なえる。	【特色】 ・第三者機関の審査に耐えうる教育体制の点検を行なえる。
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・2019 年度新カリ科目「専攻研究」（3 年後期必修）と連動した研究室体制（3 年生の入室時期、人数配分など）	【問題点】 ・JABEE 認定のほか「測量士補」、「自然再生士補」の「資格認定」を受けた学生の卒業後の取得状況の把握。	【問題点】 ・造園科学科以外の教員や非常勤講師の方への「授業のファイル」作成・配布と回収。	【問題点】 ・編入生が低学年で履修すべき科目が多く、学生の過負担と履修モデルに即した体系化が損なわれる可能性がみられる。	【問題点】 ・学習障害などの学生に対する評価や学力が伴わない学生に対する個別指導やそれらに関する運営業務が増加傾向にある。
根拠資料名	造園資料①造園科学科カリキュラムと学習・教育目標 造園資料②専攻研究シラバス	造園資料③学習教育到達チェック 造園資料④樹木医補取得状況	造園資料⑤jabee ワーキング・授業のファイル	造園資料③学習教育到達チェック 造園資料⑤jabee ワーキング・授業のファイル	造園資料⑥学科教員、非常勤講師・客員教授を含めた教員連絡会会議資料 造園資料⑦修学支援等関連書類

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している	☒ 行っている
点検項目に 対する 現状説明	・大学で行われるオープンキャンパスなどの機会を通じ、入試に関する説明会を行い、学生募集の機会と学科の内容を周知できるように努めている。 ・入試制度は、センター試験利用型入試、一般入試の他に一般推薦、指定校推薦、優先入試などがある。造園科学科では、教育・研究・就職等の特徴を考え、首都圏のみならず地方の高校、農業系高校からも優秀な学生を採用すべく継続的な議論を実施している。 推薦・優先入試における入学者の選抜においては、小論文、面接の内容を検討し、学科教員を可能な限り分野や職階の異なる編成により、面接などの採点を実施している。試験終了後は全教員により合否判定を行っている。センター利用型、一般入試についても、合否判定は学科の全教員が参加して行っている。	・推薦入試においては、面接時に造園科学科のアドミッションポリシーの理解度の確認を行い、ディプロマポリシーとの相違がないかを確認している。 ・一般入試に関しては、大学ホームページや大学案内に加え、オープンキャンパスに伴い学科案内の誌面の見直しを行い、写真やイラストなどを多く採用し、造園科学科の取り扱う領域を今まで以上にビジュアルで理解できるように改めるなど、改善・向上に向けた取り組みを行なった。また大学 HP の造園科学科のオリジナルサイトの改定、2019 年度から従来 B5 判であった学科指針を A4 判に変更し、表紙なども一新し、在校生、受験生への理解深化につとめた。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・卒業生は主として造園界（公務員、中学理科教員、高校農業科教員、造園計画・設計事務所、造園建設系企業、住宅関連企業、ナーセリー、生花関連企業など）への就職の他、本学大学院造園学専攻などへの進学に進路を求める者も少なくなく、進路は広域な造園界の全ての職域にわたっており、社会においては造園技術者の中核として活躍するなど、本学科の入試成果が有効に活用されていることを裏付けていると思われる。	【長所】 ・多くの入試制度が異なる時期に実施されることは、受験生確保の点からも意義は大きい。
	【特色】 ・センター試験利用型入試、一般入試、一般推薦、指定校推薦、優先入試など、多様な入試制度と各地域から学生を確保することで多様な人材が確保できる。	【特色】 ・学科案内の誌面の見直しを行い、写真やイラストなどを多く採用し、造園科学科の取り扱う領域を今まで以上にビジュアル化したことで、造園が取り扱う領域の広がりが受験生に具体的に理解できるようになった。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・様々な入試制度で多様な人材が確保できる反面、学力のバラつきも少なくなく、学生のレベル設定をどこに重点を置くかが困難となる。	【問題点】 ・現状では入試前であるため、学生の受け入れの適切性に関する改善・向上の評価が困難
	【課題】 ・造園科学科の魅力の周知と地域創成科学科との相違点など。	【課題】 ・学習意欲が減退している学生も少なからずおり、その結果不登校や退学する学生がおり、その対応が困難を伴うことが少なくない。
根拠資料名	造園資料⑧合否判定評価基準	造園資料⑧合否判定評価基準 造園資料⑨2019 年度学科指針

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☑している	☑している	☑行っている	☑ 一部つなげている	☑ 一部行っている
点検項目に対する 現状説明	専門分野ごとに、適切な人材が配置されるように努力している。	学科教員の補充、昇格を実施し、教員組織の充実をはかった。	2019 年度 4 月採用を目指した教員公募を実施し、採用を行なった。また 2 名の教員の昇格を実施し、造園科学科を構成する 3 分野の教員組織の充実を図った。	異なる専門分野の人員配置については現状バラツキがあるため、組織的な対応が行われているとはいいにくい面も認められるが、教員の新規採用、昇格の実施に伴い教員組織の改善につなげる努力を継続的に検討している。	新規採用及び昇格人事を行い、より適切な組織体制の維持・構築に向けて検討を行っている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・複合的な専門指導体制が構築できる。	【長所】 ・学科における教員編制が充実する。	【長所】 ・優秀な教員の採用、昇格に伴い教育研究活動を展開することが可能となる。	【長所】 ・今後の検討で組織の充実・改善にも適切な対応が可能である。	【長所】 ・2019 年度 4 月採用、及び昇格が予定されており、学科における教員編制が充実する。
	【特色】 ・専門性の異なる人材の配置で多様な教育・研究体制を構築可能である。	【特色】 ・新たな教員確保に伴い、学科教育の充実が図れる。	【特色】 ・優秀な教員の採用、昇格に伴い学科内の教育研究活動が活性化される。	【特色】 ・継続的な指導体制を整えることができる。	【特色】 ・現状における人材確保の予定分野が明確である。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・今後学科内の教員数を十分に確保することが困難な場合が想定される。	【問題点】 ・今後定年を迎える教員が連続し、学科内の教員数と年齢構成の階層を十分に検すること必要性が認められる。	【問題点】 ・研究環境の問題から昇格に必要な条件を十分に確保できない教員への支援体制が必要なこと。	【問題点】 ・今後、教員の数と時期を適切に考え、組織の充実・改善を検討する必要性がある。	【問題点】 ・特になし
	【課題】 ・教員確保に向けた、研究環境の充実を図る必要性がある。	【課題】 ・教員確保に向けた、研究環境の充実を図る必要と共に人材導入も含め、新たな人事体制を構築する必要性が考えられる。	【課題】 ・昇格に伴う業績確保に向けた研究環境の充実を図る必要と共に、新たな人事体制を構築する必要性が考えられる。	【課題】 ・今後の大学院組織と連携した人事体制を構築できるよう検討が必要である。	【課題】 ・今後の大学院組織と連携した人事体制を構築できるよう検討が必要である。
根拠資料名	造園資料⑩2019 年度大学案内	造園資料⑪2019 年度採用・昇格書類	造園資料⑪2019 年度採用・昇格書類	造園資料⑪2019 年度採用・昇格書類	造園資料⑪2019 年度採用・昇格書類

学部・研究科名地域環境科学部

学部長・研究科委員長名小梁川 雅

学科名・専攻名地域創成科学科

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☐ 講じている ☒ 一部講じている ☐ 講じていない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☐ している ☒ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	学科設置時に文科省に提出した「設置の趣旨等を記載した書類」および事前相談資料「③教育課程等の概要」,「⑤授業科目の概要」に記載したカリキュラムポリシーおよび授業等科目群にしたがって、教育課程を体系的に編成している。	実習科目と専門科目との関連性を説明し、必要に応じて講義資料等の見直しを指導している。また、実習科目では実習内容毎に資料を配付し、自主学習を促している。	シラバスに成績評価基準を明記し、それに従った評価および単位認定を行っている。	現時点では、2年次生までしか在籍しておらず、ディプロマポリシーの卒業に関する事項は満足していないが、その他の項目に関しては履修モデルに基づいた科目履修を指導している。	教員全員が参加する教育点検委員会において教務関連事項について審議している。特に実習科目においては別途学科内委員会（実習検討委員会）を組織し、実習内容の検討を行っている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・1年次から「地域づくり」を意識した教育を実施している。	【長所】 ・シラバスに沿って実施しているため、長所や特色は特にない。	【長所】 ・シラバスに沿って実施しているため、長所や特色は特にない。	【長所】 ・実習等の機会を通じて、ポートフォリオの作成を指導している。	【長所】 ・実習科目の連関を意識した検討を行っている。
	【特色】 ・1年次から実習科目を前・後期に配置し、実践的教育を行っている。	【特色】 ・シラバスに沿って実施しているため、長所や特色は特にない。	【特色】 ・シラバスに沿って実施しているため、長所や特色は特にない。	【特色】 ・ディプロマポリシーを意識し、地域づくりに資する人材育成を行っている。	【特色】 ・1年次から実習科目を前・後期に配置し、実践的教育を行っている。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし
	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし
根拠資料名	・学生生活ハンドブック[カリキュラム] ・教育研究上の目的・教育目標・3ポリシー	・シラバス[土と水の科学&フィールド実習（一）&地域環境論，測量学&測量実習]	・シラバス [地域交流実習]	・履修のてびき ・教育研究上の目的・教育目標・3ポリシー	・地域創成科学科 学内委員リスト

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☐ 行っている ☐ 一部行っている ☒ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	理系，文系を問わず，「地域づくり」に積極的に取り組める学生を募集し，様々な選抜試験を行っており，その結果を公表している。	入試選考会議は全教員が参加することとしており，学生の受け入れの適切性は担保されている。ただし，現時点では，2年次生までしか在籍しておらず，十分なデータが揃っていないため，改善・向上に向けた取り組みを行うに至っていない。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・一般入試，センター試験入試では，学内他学科に比べて，幅広い科目選択を可能としている。また，推薦入試では「地域づくり」を意識した小論文を課し，選抜を行っている。	【長所】 ・理系，文系を問わず，幅広い人材を募集している。
	【特色】 ・大学案内では，「地域づくり」をキーワードとした学科紹介を行い，アドミッションポリシーを意識させている。	【特色】 ・「地域づくり」に積極的に取り組める学生を募集している。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし
	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし
根拠資料名	・大学案内 2019 [2019 年度入試制度] ・教育研究上の目的・教育目標・3 ポリシー	・平成 30 年度 地域創成科学科 第 26 回教員会議 議事録（平成 30 年 11 月 19 日）

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☐ つなげている ☒ 一部つなげている ☐ つなげていない	☐ 行っている ☐ 一部行っている ☒ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	大学及び本学部の教員組織の編制方針を踏まえるとともに、本学科の教育研究上の目的、教育目標及び3つの方針を十分理解し、それらに対応する能力と意欲を備えている教員を配置する、としている。	地域創成科学を構成する各々の学問領域において、優れた教育能力、研究能力を備え、地域創成科学の発展に貢献できる教員を配置している。	業績調査を行っており、昨年度の学科教授会において審議し、助教から准教授への昇格人事を行った。なお、学科完成年度までは教員の募集、採用に関しては該当しない。	学科教授会が中心となり、海外留学の機会を通じた新たな研究シーズの発見、これまでの研究領域の応用展開が期待できる若手教員に対して、積極的に海外留学を認めている。	学科設置時に文科省に提出した「設置の趣旨等を記載した書類」に記載した内容は、平成32年までは大きく変更してはいけないため、特段に見直しは行っていない。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・教員組織の編制方針に記した通りであり、長所や特色は特にない。	【長所】 ・地域創成科学科の人材育成目標の達成と円滑な学科運営を重視している。	【長所】 ・年齢に関係なく、十分な業績を有し、学科運営に積極的な人材を昇格対象としている。	【長所】 ・1研究室あたり3名の教員を配置し、留学教員不在時の支援体制を整えている。	【長所】 ・特になし
	【特色】 ・教員組織の編制方針に記した通りであり、長所や特色は特にない。	【特色】 ・「地域づくり」という幅広い研究領域に対応している。	【特色】 ・特になし	【特色】 ・実習は全教員が参加することで、留学教員不在時の支援体制を整えている。	【特色】 ・特になし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし
	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし	【課題】 ・大学院設置に向け、定期的に業績チェックを行う必要がある。	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし
根拠資料名	・教員組織の編制方針 ・設置認可申請書・届出書「設置の趣旨等を記載した書類」 オ. 教員組織の編成の考え方及び特色	・教員組織の編制方針 ・設置認可申請書・届出書「設置の趣旨等を記載した書類」 オ. 教員組織の編成の考え方及び特色	・平成30年6月19日（火）東京農業大学合同教授会議事概要	・入江准教授留学申請書・同意書	

学部・研究科名地域環境科学部

学部長・研究科委員長名小梁川 雅

学科名・専攻名森林総合科学科

1. 教育に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	◎ カリキュラム改正 次期（教職課程再課程認定後の完成翌年度の平成 35 年度）の大きなカリキュラム改正に向けて、分野・研究室体制、学科専門科目の科目、必修・選択の区分、内容、担当者、配当学年・学期などの見直し、カリキュラムツリーならびに履修モデルなどの作成を行う。また、学内外における実験実習や卒業論文研究の充実を図るため、その内容、担当者、配当学年・学期などを毎年度見直し、次期の改正カリキュラムの内容と整合がとれるよう再構築する。 なお、教職課程再課程認定の関係上、昨年度目標策定時は平成 33 年度改正を目指していたものが 2 年間遅れることになったが、作業は順次進める。	◎ 卒業生の質保証 問題発見およびその問題解決能力、分かりやすく表現できる記述力やプレゼンテーション能力およびコミュニケーション能力などのスキルアップを図る。	◎ 大学院進学者の増加に向けた取り組み 入学定員の充足を図るべく、専門基礎能力の涵養に努め、新規研究領域の開拓や研究手法の開発に取り組む。
実行サイクル	____ 4 ____ 年サイクル（平成 29 年～ 32 年）	____ 1 ____ 年サイクル（平成 30 年～ ____ 年）	____ 1 ____ 年サイクル（平成 30 年～ ____ 年）
実施 スケジュール	① 現行カリキュラム（講義、実習科目）の問題点・課題抽出、現行の実習科目内容の問題点・課題抽出 ② 学科専門科目の科目、必修・選択の区分、内容、担当者、配当学年・学期などの見直し ③ カリキュラムツリーおよび履修モデルの作成、学外（演習林等）実習科目の実施スケジュールの作成 ④ 履修モデル、および時間割の作成	研究室単位で行う 3 年生の専攻実験実習や 4 年生の卒業論文研究を通して、問題発見およびその問題解決能力、分かりやすく表現できる記述力、プレゼンテーション能力およびコミュニケーション能力などのスキルアップを図る。そのために、各研究室において課題研究発表や、卒業論文の所信表明、中間発表、成果報告会に取り組む。	専攻実験実習や卒業論文指導などを中心として、研究室活動の一層の充実を図る。具体的には、学生参加型のゼミの開催や学習成果の発表機会の確保、学外実習の充実などに取り組む。
目標達成を測定する指標	① 新カリキュラムにおける学科専門科目の確定 ② 新カリキュラムにおける実習科目の内容、スケジュール確定 ③ カリキュラムツリーの作成 ④ 履修モデルの作成 ⑤ 時間割の作成	① 専攻実験実習などにおける情報収集（文献調査など）やプレゼンテーションの評価 ② 卒業論文の所信、中間、成果発表会や、提出論文などに関する評価	① 専攻実験実習などにおける評価 ② 卒業論文の所信、中間、成果発表会、提出論文に関する評価 ③ 学外実習機会の確保状況の確認など
自己評価 （☑を記入）	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に対する 現状説明	学科将来構想委員会における分野組織の変更をすすめている。これに伴ってカリキュラム、実習などの見直しを行う。学科全体の結論には至っていない。短期的な対応は随時行っている。	卒業論文については、各研究室で対応している。要旨や発表会などの連絡は学科全体で行う。横断的な発表会の実施や実際に事業に携わっている卒業生との交流も行っている。中間発表なども各研究室単位で実施している。	大学院 1 期試験で、優秀な学生確保を行ってきた。しかしながら、定員を充足するまでには至っていない。
現状説明を踏まえた 長所・特色	【長所】 ・分野名変更に伴い、段階的な分野から視点や手法を特徴としている。科目配置、実習との関連性を検討中である。	【長所】 ・各実験、実習、学外活動など、すでに「アクティブ・ラーニング」の要素を取り入れてきている。	【長所】 ・意欲の高い院生の確保 大学院専攻の発表会に多くの学部学生が参加している。

	【特色】 ・長期方針については学科将来構想委員会、短期方針については学科教育点検実務委員会で検討している。	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし
現状説明を踏まえた 問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・教職・学術情報課程の資格取得基礎科目との関連	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし
根拠資料名	学科教育点検実務委員会資料＊ ⑦学科将来構想委員会資料	②森林総合科学科研究室紹介 ⑧卒業論文発表要旨集	⑨大学院説明会資料 ⑩大学院発表会資料

＊学科会議で検討し議事録としていて抽出不可能

2. 研究に関する総合的事項

	①	②
目 標	◎ 学内での連携による研究の推進 学科内、学部内、学内における研究交流の実現。	◎ 学外関係者との連携による研究の推進 学外における研究交流の実現。
実行サイクル	____2____年サイクル（平成 29 年～ 30 年）	____2____年サイクル（平成 29 年～ 30 年）
実施 スケジュール	単独研究あるいは同一専門内における研究に終始せず、学内他分野との連携強化を図り、共同研究の成果を論文などの形式により公表することを念頭に、初年度は研究内容の調整と研究計画の策定を実施。	学内における研究に終始せず、学外他分野との連携強化を図り、共同研究の成果を論文などの形式により公表することを念頭に、初年度は研究内容の調整と研究計画の策定を実施。
目標達成を測定する指標	① 連携実績の確認 ② 研究計画策定の確認 ③ 成果公表（準備）の確認	① 連携実績の確認 ② 研究計画策定の確認 ③ 成果公表（準備）の確認
自己評価 （☑を記入）	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	総研プロジェクトをはじめ、学部プロジェクトなど他学科教員との連携による調査研究に取り組んでいる。	科研費をはじめ、各学会におけるプロジェクト研究など、他大学、研究機関と連携した調査研究に取り組んでいる。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・本学科では森林、林業、林産業、農山村振興などを中心に幅広いキーワードを持っていることから、他学部、他学科教員と連携した調査研究に取り組むことができる。	【長所】 ・本学科では森林、林業、林産業、農山村振興などを中心に幅広いキーワードを持っていることから、学外他分野と連携した調査研究に取り組むことができる。
	【特色】 ・農学領域だけでなく、他領域の研究者とも連携した調査研究を行っている。	【特色】 ・農学領域だけでなく、他領域の研究者とも連携した調査研究を行っている。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・研究を遂行するための十分な時間の確保が困難である。	【問題点】 ・研究を遂行するための十分な時間の確保が困難である。
	【課題】 ・学内業務とのバランスに注意をする。	【課題】 ・学内業務とのバランスに注意をする。
根拠資料名	⑧卒業論文発表会資料集 ⑪総合研究所プロジェクト資料	包括連携資料＊

3. その他に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	◎ 学科 PR 活動の強化 受験生の増加、質の高い学生確保に向けた学科広報のあり方を検討し、高校への出張講義や一般市民対象の講座など学内外において積極的な PR 活動を行う。また、学科パンフレットの見直しや学科関連の出版物刊行など PR 活動の充実を図る。	◎ 危機管理体制の改善・強化 学科内に既に設置してある「危機管理委員会」および「将来構想委員会」などの連携を強化し、各種ハラスメントおよび事故などの発生防止に努めるとともに、万が一の事案発生についてシミュレーションを行う。	◎卒業生（同窓会）との連携強化 同窓会組織等と連携し、相互に資する関係の強化を図り、学生の確保、卒業生の就業機会の確保に努める。また、同時に学科の社会貢献の一環として位置づける。
実行サイクル	___ 3 ___ 年サイクル（平成 29 年～ 31 年）	___ 1 ___ 年サイクル（平成 30 年～ 年）	___ 1 ___ 年サイクル（平成 30 年～ 年）
実施 スケジュール	① 指定校を見直し、質の高い学生を確保 ② 高校への出張講義などを増加、学科の PR ③ 全国の高等学校森林・林業教育関係者との連携を図り、大学・学部・学科の PR を行う ④ パンフレットなどの見直しを行う	① 危機管理委員会の開催 ② 将来構想委員会の開催 ③ 危機管理委員会および将来構想委員会の連携	① 学科教員の同窓会活動への参加 ② 同窓生による学科学生のための各種行事（講座など）の開催 ③ 卒業生名簿などの整備
目標達成を測定する指標	① 指定校の見直しを確認 ② 高校への出張講義などの増加状況の確認 ③ 全国の高等学校森林・林業教育関係者との連携実態の確認 ④ パンフレットなどの見直し状況の確認	① 危機管理委員会の開催確認 ② 将来構想委員会の開催確認 ③ 危機管理委員会および将来構想委員会の連携状況の確認 ④ 学生の学内外における活動の規定・ガイドラインやマニュアルなどの整備（改定および新規作成）	① 学科教員の同窓会活動への参加状況の確認 ② 同窓生による学生のための各種行事の開催状況の確認 ③ 卒業生名簿の整備状況の確認
自己評価 (☑を記入)	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	指定校の見直しを行い提出した。高校への出張講義を行ったが、現状維持の状態である。森林関係の高校へ、献本やパンフレットを配布するなどの PR を行っている。 パンフレットの改訂版を作成した。オープンキャンパスに積極的に参加し、来場者が増加した。 各教員に木の名刺を作成した。 JR 奥多摩駅に学科のパンフレットを常置した。 ハイウェイ・テクノフェアで学科の PR を行った。	学科の危機管理委員会で、学生の運転に関するマニュアルを作成して実行中である。 演習林内での実習および調査・実験における安全の手引きを作成し、学生および教員に配布した。 学科教員間の緊急連絡網を作成した。	林学同窓会常任幹事会に出席した。 卒業生と語る会を実施した。 学科卒業生対応実務委員会にて、林学同窓会役員を推薦した。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・学科の特徴を活かした活動を行っている。	【長所】 ・学科の特徴を活かした活動を行っている。	【長所】 ・なし
	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・高校への出張講義や PR は、現状維持の状態である。	【問題点】 ・問題が発生した場合の対応の仕方については、検討を要する。	【問題点】 ・林学同窓会活動の学生への PR と会費の徴収
	【課題】 ・具体的な効果についての検討も必要	【課題】 ・学生危機管理意識を高める必要性	【課題】 ・なし

平成30年度 包括的な点検・評価報告書

様式2

根拠資料名	⑫ハイウェイテクノフェア ⑬学科パンフレット改訂版 学科紹介ビデオ（70周年記念で作成）＊ ⑭奥多摩演習林の木材活用ビデオ ⑮木の名刺作成	⑯演習林安全のてびき ⑰学科教員の緊急連絡網 ⑱ハラスメント防止委員会 ⑲学生運転規則の作成 危機管理委員会議事録＊	卒業生対応実務委員会議事録＊ ⑳卒業生と語る会実行報告書 ㉑同窓会総会実施記録
-------	---	--	---

＊学科会議で検討し議事録としていて抽出不可能

学部名 地域環境科学部

学部長名 小梁川 雅

学科名 生産環境工学科

1. 教育に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	生産環境工学科における基礎教育の改善	個人面談の実施と学生カルテの作成	教員による授業視察結果の活用法の検討
実行サイクル	4 年サイクル（平成 29 年～33 年）	4 年サイクル（平成 29 年～33 年）	4 年サイクル（平成 29 年～33 年）
実施 スケジュール	GPA1.0 以下の全学年の学生を対象に、年 2 回の個人面談を実施し、学生の就学状況の把握に努めている。また、リメディアル試験の成績不良者のうち、リメディアル科目の受講対象者から外れた学生に対して、数学の学習支援を行っている。	平成 29 年度の 1 年生から年 2 回の個人面談を実施し、学生カルテの作成と教育システムの改善方法の検討を行っている。	教員 1 人当たり年間 2 回（前期、後期各 1 回）の授業視察を課し、報告書を提出している。
目標達成を測定する指標	GPA の分布と推移。	学生と教員とのコミュニケーション回数。	学生による授業評価アンケート。
自己評価 （☑を記入）	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に対する 現状説明	理系科目の基礎学力の低下が著しく、4 年次の卒業研究に於いてもレベルの低下が著しい。基礎教育のあり方を見直し、底上げを図る必要がある。平成 29 年度 9 月から、全学年の GPA が 1 未満の学生を対象に面談を行っている。併せて平成 30 年度からは、年 2 回の面談に加え、数学の学習支援（補講）を全教員で行っている。	学生 10 名／教員 1 名の体制で実施している。平成 29 年度に試験的な実施を行ったが、データの管理の観点から、カルテは手書きとし事務室の施錠ラックで一括管理することとした。平成 30 年度は、1 年次および 2 年次を対象に、個人面談を実施して学生カルテを更新した。	授業視察結果報告書を教員会議で回覧し、内容の確認を行っている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・専門教育の充実、専門分野を活かした就職を実現させる。	【長所】 ・学生のコミュニケーション能力を改善し、メンタルセキュリティを向上させる。	【長所】 ・他の教員の授業および授業視察結果報告を見ることにより、自分自身の授業を改善できる。
	【特色】 ・学科の自己認識と社会的貢献の向上に繋げる。	【特色】 ・学問的なサポートにより、メンタル面でも良い効果が期待できる。	【特色】 ・教員間の信頼関係を深化させ、情報共有を推進する。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・達成度別クラス分け教育における数学教員が不足している。	【問題点】 ・教員における学生カルテ作成に要する時間の確保が難しい場面がある。	【問題点】 ・情報の共有にとどめ、教員の教育価値観の多様性を維持することが重要である。
	【課題】 ・受講生のやる気・向上心の高揚と維持が重要である。	【課題】 ・教員と学生との考え方の違いで、評価が異なる場合がある。	【課題】 ・さらに情報の活用方法を模索する。
根拠資料名	GPA の分布（工学 015.pdf） 学生カルテ（工学 016.pdf）	学生カルテ（工学 016.pdf）	授業視察結果報告書（工学 017.pdf）

2. 研究に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	学部生の学会参加の促進による専門分野への学生の意識向上	卒論発表会の実施による学科内での研究情報の共有	大学院進学率の向上
実行サイクル	<u> 4 </u> 年サイクル（平成 29 年～33 年）	<u> 1 </u> 年サイクル（平成 30 年～31 年）	<u> 2 </u> 年サイクル（平成 28 年～30 年）
実施 スケジュール	教員が加入している学会での発表、シンポジウムへの参加を促進する。	1 月下旬頃に学科全体で、8 会場において同日開催している。1 会場当たり 2 名の教員が出席し、評価に当たる。	入学式、教育懇談会において大学院教育を案内するとともに、学部 3、4 年生を対象に説明会の開催とアンケート調査を実施する（大学院入試の前の月（5 月、12 月）の 2 回）。
目標達成を測定する指標	参加状況のアンケート調査。	評価表。	受験者数の実績。
自己評価 （☑を記入）	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☒ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	学科長特別賞を設定し、学部生で学会発表を行った学生を卒業式で表彰している。平成 29 年度実績は 8 名で前年度の 2 倍となった。また、大学内での研究会参加は、授業振り替えなどで対応している。平成 30 年度は 13 名が学科長特別賞を受賞予定である。	学科全体での卒論発表会の実施は既に 40 年の歴史がある。研究室内に留まらず学科全体で発表会を開催するため、専門外の教員にも分かるように 4 年次生のプレゼンテーション能力の向上に役立っている。	学部在生を対象とした大学院入試の広報も行っているが、大学院の進学率は変動が大きい。景気の浮き沈みによって求人倍率変動し就職率が影響を受けたり、保護者の経済的な要因に関係したりすることが考えられる。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・関係専門分野への関心や、貢献心を高揚できる。	【長所】 ・学科内教員間で情報共有ができ、教員間の意識が向上する。	【長所】 ・優秀な大学院生の確保によって研究レベルが向上する。
	【特色】 ・会費助成の活用により他の大学に比し優位に展開できる。	【特色】 ・教員の専門分野の相互理解が深まり、常に前向きな議論が出来る。	【特色】 ・大学院農業工学専攻ではバイリンガル教育を実施しており、毎年一定数の留学生が入学しているものの、内部進学者は少ない傾向にある。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・学生や教員の授業日と学会日程との不整合が生じる場合がある。	【問題点】 ・開催当日に授業がある場合、教員は出席できない場合がある。	【問題点】 ・内部からの大学院への進学率が低い。
	【課題】 ・学生の基礎学力や研究レベルの低下は課題である。	【課題】 ・なし	【課題】 ・優秀な大学院生を確保することが課題である。
根拠資料名	学科長特別賞規約（工学 018.pdf） シンポジウム等参加者名簿（工学 019.pdf）	卒論担当者・テーマ一覧（工学 011.pdf）	大学院在籍者名簿（工学 020.pdf）

3. その他に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	地方出身の優秀な学生確保	学科の課外活動組織（農工会）主催の就職セミナー、 業界研究会の開催による専門性を活かした就職支援	学科の課外活動組織（農工会）主催の現地見学会の実施
実行サイクル	__4__ 年サイクル（平成 28 年～32 年）	__4__ 年サイクル（平成 28 年～32 年）	__1__ 年サイクル（平成 30 年～31 年）
実施 スケジュール	毎年 6 月上旬に行う指定校推薦を活用する。 入学後の成績・就職先について追跡調査を行い、指定校との関係を樹 立し、育んでいく。	3 年次生対象に 12 月に業界研究会を、また 4 年次生を対象に 4 月に就職 セミナーを開催する。	平成 30 年度および 31 年度は、1 月のセンター入試準備ための休 校日に実施する。
目標達成を測 定する指標	地方出身学生の就職先。	専門性を活かした就職先への就職率。	就職先との関係の深化。
自己評価 (☑を記入)	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	平成 29 年度学科に配付された高校ランキングを活用し、地方高校か らの採用を優先的に実施した結果、平成 29 年度はランクの高い地方 高校から 2 名が入学したが、平成 30 年度は受験者数が減少した。ま た、31 年度については地方を中心に 10 名が指定校で受験した。	平成 30 年度は前学期中の 5 月 9 日に就職セミナーを開催した。後学期の 12 月 12 日には業界研究会を開催し、官公庁から 23 団体、民間企業 社 の計 59 団体が参加し、3 年次生のみならず、1、2 年生からも多くの出席 者を得た。	平成 30 年度の見学先は、大林組技術研究所で参加学生数は 20 名、教員 4 名であった。今までに実施した主な見学先は、埼玉県 下久保ダム、埼玉北部用水地区、江戸川高規格堤防、首都圏外郭 放水路、野田自然ファーム、スガノ農機株式会社、農業・食品産 業技術総合研究機構「農村工学研究所」、南極観測船しらせ、株 式会社ウェザーニューズなどである。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・地方公務員の求人への対応により、地域社会への貢献度が増す。	【長所】 ・学科の社会貢献をアピールでき、卒業生からの要求に応えられる。また、 就職先を意識した修学意欲の向上に繋がる。	【長所】 ・教員の実施する共同研究や卒業生の就職先等と連携した見学会 であることから、一般者は見学できない専門的な施設等の見学が 可能である。
	【特色】 ・農大で専門教育を受けた学生を地域に帰す（＝人物を畑に帰す）。	【特色】 ・学科の専門教育を受けた卒業生が全国で活躍できる（人物を畑に還す）。	【特色】 ・卒業生がサポートしてくれるケースが多い。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・地方の優秀な学生を確保する方策に乏しい。	【問題点】 ・地方の優秀な学生を確保する方策に乏しい。	【問題点】 ・在学生の参加希望者が限定されている。
	【課題】 ・指定校のランク調査の信頼性と入学者の成績の関係については課題 である。	【課題】 ・セミナー開催時期の選定と担当教員の負担が課題である。	【課題】 ・授業日と重なるため、実施日の確保が難しい。
根拠資料名	指定校の受験実績（工学 021.pdf）	セミナー参加企業リスト（工学 022.pdf） 第 30 回教員会議事録（平成 30 年 12 月 17 日）（工学 023.pdf） 就職先リスト（工学 005.pdf）	見学先実績リスト（工学 024.pdf） 第 32 回教員会議事録（平成 30 年 1 月 21 日）（工学 025.pdf）

学部・研究科名	地域環境科学部
学部長	小梁川 雅
学科	造園科学科

1. 教育に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	都市環境から自然環境に至るまでの育成と保全に科学的かつ実践的に対応できる者を養成することを目標とする。	新たな環境を計画的、デザイン的に創成できる者を養成することを目標とする。	技術と実践力をもって自然環境の利活用を生態技術的、環境芸術的に処理できる者を養成することを目標とする。
実行サイクル	8 年サイクル（平成29年～37年）	8 年サイクル（平成29年～37年）	8 年サイクル（平成29年～37 年）
実施 スケジュール	・カリキュラムポリシーに基づき、学習目標を学生に周知して授業を実施するとともに、レポート・試験を通して学生の学習目標達成度の評価を行う。 ・JABEE 認定校としての要件を常に確認し、自己点検を含めた、技術者教育の確認を継続する。また、第三者の審査による教育体制の点検を行う。	・カリキュラムポリシーに基づき、学習目標を学生に周知して授業を実施するとともに、レポート・試験を通して学生の学習目標達成度の評価を行う。 ・JABEE 認定校としての要件を常に確認し、自己点検を含めた、技術者教育の確認を継続する。また、第三者の審査による教育体制の点検を行う。	・カリキュラムポリシーに基づき、学習目標を学生に周知して授業を実施するとともに、レポート・試験を通して学生の学習目標達成度の評価を行う。 ・JABEE 認定校としての要件を常に確認し、自己点検を含めた、技術者教育の確認を継続する。また、第三者の審査による教育体制の点検を行う。
目標達成を測定する指標	・授業シラバスの15回の定期的点検と教員相互の点検を実施する。また、学生による授業評価と満足度評価を実施する。 ・日本技術者教育認定機構(JABEE)による教育点検を常に実施し、点検、評価、を実施する。	・授業シラバスの15回の定期的点検と教員相互の点検を実施する。また、学生による授業評価と満足度評価を実施する。 ・日本技術者教育認定機構(JABEE)による教育点検を常に実施し、点検、評価、を実施する。	・授業シラバスの15回の定期的点検と教員相互の点検を実施する。また、学生による授業評価と満足度評価を実施する。 ・日本技術者教育認定機構(JABEE)による教育点検を常に実施し、点検、評価、を実施する。
自己評価 (☑を記入)	☑達成した	☑達成した	☑達成した
目標に対する 現状説明	・学生自身が授業科目における目標達成度を十分に理解できるように、成績評価の基準を明示するとともに、答案やレポートの返却を行っている。また、前期・後期の学年ガイダンス時には、各学生による目標達成度チェックを実施し、達成度に応じた学生への学習指導を行っている。 ・現在「授業のファイル」の作成・提出状況を確認している。	学生自身が授業科目における目標達成度を十分に理解できるように、成績評価の基準を明示するとともに、答案やレポートの返却を行っている。また、前期・後期の学年ガイダンス時には、各学生による目標達成度チェックを実施し、達成度に応じた学生への学習指導を行っている。 ・現在「授業のファイル」の作成・提出状況を確認している。	学生自身が授業科目における目標達成度を十分に理解できるように、成績評価の基準を明示するとともに、答案やレポートの返却を行っている。また、前期・後期の学年ガイダンス時には、各学生による目標達成度チェックを実施し、達成度に応じた学生への学習指導を行っている。 ・現在「授業のファイル」の作成・提出状況を確認している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・第三者機関である日本技術者教育認定機構（JABEE）による認定を得ており、自然科学と社会科学を包括した造園学の総合的かつ実践的教育を目指すことが可能となる。	【長所】 ・第三者機関である日本技術者教育認定機構（JABEE）による認定を得ており、自然科学と社会科学を包括した造園学の総合的かつ実践的教育を目指すことが可能となる。	【長所】 ・第三者機関である日本技術者教育認定機構（JABEE）による認定を得ており、自然科学と社会科学を包括した造園学の総合的かつ実践的教育を目指すことが可能となる。
	【特色】 ・「授業のファイル」の作成・提出により、目標が適切に実施されているかが教員相互で点検することが可能となる。	【特色】 ・「授業のファイル」の作成・提出により、目標が適切に実施されているかが教員相互で点検することが可能となる。	【特色】 ・「授業のファイル」の作成・提出により、目標が適切に実施されているかが教員相互で点検することが可能となる。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし
	【課題】 ・現在「授業のファイル」の作成・提出状況を確認し、今後問題点の抽出、課題の検討が必要である。	【課題】 ・現在「授業のファイル」の作成・提出状況を確認し、今後問題点の抽出、課題の検討が必要である。	【課題】 ・現在「授業のファイル」の作成・提出状況を確認し、今後問題点の抽出、課題の検討が必要である。

平成30年度 包括的な点検・評価報告書

様式2

根拠資料名	造園資料①造園科学科カリキュラムと学習・教育目標 造園資料③学習教育到達チェック 造園資料造園資料⑤jabee ワーキング・授業のファイル 造園資料⑥学科教員、非常勤講師・客員教授を含めた教員連絡会 会議資料 造園資料⑫シラバス第三者評価	造園資料①造園科学科カリキュラムと学習・教育目標 造園資料③学習教育到達チェック 造園資料造園資料⑤jabee ワーキング・授業のファイル 造園資料⑥学科教員、非常勤講師・客員教授を含めた教員連絡会会議 資料 造園資料⑫シラバス第三者評価	造園資料①造園科学科カリキュラムと学習・教育目標 造園資料③学習教育到達チェック 造園資料造園資料⑤jabee ワーキング・授業のファイル 造園資料⑥学科教員、非常勤講師・客員教授を含めた教員連 絡会会議資料 造園資料⑫シラバス第三者評価
-------	--	--	--

2. 研究に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	造園科学のバックボーンである植物、植生、そして自然を科学し、生物技術による環境創成を扱うことを目標とする。	地域らしさを常に考え、地域の環境計画と場のデザインに貢献する造園手法を追求することを目標とする。	造園科学が適用される空間を建設するエンジニアリング分野で、建設技術工学、建設施工管理の理論と実務を扱うことを目標とする。
実行サイクル	____8____年サイクル（平成29年～37年）	____8____年サイクル（平成29年～37年）	____8____年サイクル（平成29年～37年）
実施 スケジュール	・日本造園学会、都市計画学会、土木学会等学会活動を行う。 ・国際学会等の活動を行う。	・日本造園学会、都市計画学会、土木学会等学会活動を行う。 ・国際学会等の活動を行う。	・日本造園学会、都市計画学会、土木学会等学会活動を行う。 ・国際学会等の活動を行う。
目標達成を測定する指標	・学会の運営・参画、論文の発表	・学会の運営・参画、論文の発表	・学会の運営・参画、論文の発表
自己評価 (☑を記入)	☑一部達成した	☑一部達成した	☑一部達成した
目標に対する 現状説明	・日本造園学会を中心とした関連学会活動や学会発表を行った。	・日本造園学会などの主催による地域環境計画へ学生が参加し、教員がその指導にあたっている。	・学部生・院生・教員による景観建設分野に関する研究が継続的に実施されている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・専門分野での研究の充実が図れる。	【長所】 ・専門分野での研究の充実が図れる。	【長所】 ・専門分野での研究の充実が図れる。
	【特色】 ・造園における植物分野の研究成果を社会へアピールすることが可能。	【特色】 ・コンペや学会主催の地域環境計画へ学生・教員が参加することで造園の社会性をアピールすることが可能となる。	【特色】 ・造園におけるエンジニアリング分野の新たな技術開発が可能となる。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・教育・研究とのバランスに配慮する必要がある。	【問題点】 ・教育・研究とのバランスに配慮する必要がある。	【問題点】 ・教育・研究とのバランスに配慮する必要がある。
	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし
根拠資料名	造園資料⑬学会発表資料	造園資料⑬学会発表資料 造園資料⑭学会主催学生コンペ資料	造園資料⑬学会発表資料

3. その他に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	・海外研究機関や組織等との学術交流によるグローバル教育の推進 ・学部や学科の組織と海外の大学あるいは研究組織との学術連携により、交流を図る。	・産・官・学の連携による実学教育の推進	・地域連携による実践的な教育研究と社会貢献の推進
実行サイクル	____ 8 ____ 年サイクル（平成29年～37年）	____ 8 ____ 年サイクル（平成29年～37年）	____ 8 ____ 年サイクル（平成29年～37年） <u>1</u>
実施 スケジュール	・海外の研究者、技術者による特別講義開催、学術交流校等との共同プロジェクト研究等の実施によりグローバル社会への適応能力向上を図る。	・産・官・学との連携により、実践的な演習・実習授業およびフィールドワークを通しての実務能力の向上を図る。	・地域との連携により、実践的な研究プロジェクト等の実施による実務能力およびコミュニケーション能力の向上とともに、社会的意義の高揚を図る。
目標達成を測定する指標	・学術交流にかかわる特別講義、特別授業、あるいは共同研究プロジェクト等の実施、教員や学生の海外留学・受入などによって評価する。また、それらの継続的交流のためのプログラムを作成する。	・演習等における設定課題テーマの内容、課題成果の発表・講評を実施する。	・各地域や造園業界で実践的に活躍する方々を招聘した講演会や特別プログラムの実施状況。
自己評価 （ ☒ を記入）	☒ 一部達成した	☒ 一部達成した	☒ 一部達成した
目標に対する 現状説明	・海外の研究者により特別講義、特別授業については、大学院造園学専攻が主体となって実施した。 ・台湾・東海大学景観学科の学生受入（夏季） ・ミシガン州立大学への教員の留学（2018年8月迄の1年間）に加え、2019年4月から台湾師範大学への教員の留学が決定しており、海外大学との交流が図れる。	・造園関連産業の第一線で活躍する方を非常勤講師に迎え、世田谷区を対象とした造園総合演習（3年後期）では、講評会には世田谷区の関係者の方にも参加頂いた。 ・せたがやガーデニングフェア、日比谷ガーデニングショーへの学生作品の出展など。	・造園科学科主催による学生・地域住民を対象とした「みどりのフォーラム（無料）」の開催、造園卒業生の組織である緑友会との連携による「リカレントスクール」の企画・運営などの実施。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・海外大学との交流	【長所】 ・学科独自の教育・特別プログラムの提供	【長所】 ・造園卒業生や組織との連携や地域連携が可能。
	【特色】 ・日本人学生の海外留学や海外姉妹校大学との交流。	【特色】 ・アクティブ・ラーニングと連動したプログラムとし位置づけができる。 ・社会に対する学生目線の造園学のアピールが可能。	【特色】 ・地域連携や実践者による教育・研究の提示と社会貢献の推進。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし
	【課題】 ・招聘にともなう予算確保など。	【課題】 ・ガーデンショー出展に伴う予算確保など。	【課題】 ・連携内容や社会貢献のアピール活動の強化。
根拠資料名	造園資料⑮台湾・東海大学景観学科の学生受入 造園資料⑯台湾師範大学への教員留学	造園資料⑰実学教育関連シラバス等 造園資料⑱ガーデンショーへの出展状況	造園資料⑲みどりのフォーラム 造園資料⑳リカレントスクール

学部・研究科名地域環境科学部

学部長・研究科委員長名小梁川 雅

学科名・専攻名地域創成科学科

1. 教育に関する総合的事項

	①
目 標	学科の目的である「水資源や食料生産，環境保全等の役割を担ってきた農山村地域の保全・再生，持続的発展など、地域の創成に貢献できる人材を輩出する」ため，学科のディプロマポリシーを学生に周知し，それに基づく教育を実践する。
実行サイクル	4 年サイクル（平成 29 年～ 32 年）
実施 スケジュール	(1) 講義・実習・演習を通じて農山村地域の現状と課題に関する学びを深めさせる。(1～2 年次) (2) 地域との協働を通じて農山村地域の持続的発展に必要な技術と経験を身につけさせる。(2～3 年次) (3) 出口である就職先を意識させるとともに各研究室において専門的な教育・研究を実施する。(1～4 年次)
目標達成を測 定する指標	(1) フレッシュマンセミナーの実施記録 (2) 地域交流実習，フィールド実習(一)(二)の成果 (3) 総合実習(一)(二)の成果
自己評価 (☑を記入)	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	本年度は地域創成科学科の設立 2 年目にあたる。先述した教育に関する総合的事項の目標と実施スケジュールに基づき、2 年次の総合実習(一)までの各種実習において、(1)農山村地域の現状と課題に関する学びを深めさせるとともに、(2)出口である就職先への意識付けをおこなった。また、本年度末までには、出口である就職先を意識させた上で研究室分けを行う予定である。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・様々な地域との連携実績があること、学生定員数が少ないこと、各教員の専門分野が多岐に及ぶこと、などを積極的に活用することによって、地域創成科学科ならではの教育が可能となる。
	【特色】 ・現地での作業・交流・調査に加えて、演習室での議論・取りまとめ・プレゼンテーションを実施することで、実践的かつ能動的な教育をおこなっている。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・なし
根拠資料名	・学科ホームページ ・2018 フレッシュマンセミナースケジュール

2. 研究に関する総合的事項

	①
目 標	競争的研究資金等の積極的な導入により地域創成に関わる実学研究を推進させる。また、学会発表や学術論文、シンポジウム等を通じて、最新の研究成果を学外に積極的に発信する。
実行サイクル	_____1_____年サイクル（平成 30 年～ 31 年）
実施 スケジュール	(1) 研究資金獲得：原則として教員全員が競争的研究資金に申請 (2) 研究成果発表：国内外の学会大会や学術雑誌等で研究成果公表 (3) 活動成果発信：学科 Web 等で活動成果を発信する
目標達成を測 定する指標	(1) 研究資金の申請・獲得状況 (2) 研究成果の公表状況 (3) 学科 Web 等での研究成果発信状況
自己評価 (☑を記入)	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	各教員がそれぞれの専門分野において積極的に活動し、成果を公表している。個別具体的な研究成果については、自己点検評価の一環として大学の公式 HP に掲載されており、そちらを参照して頂きたい。その他の特筆すべき成果としては、地域創成科学科として実施中の大学戦略研究プロジェクト「伝統的農地管理による生物多様性ならびに国土保全の評価と持続的地域防災マネジメントの構築」（平成 28 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 年）が挙げられる。本課題は、プロジェクト 3 年目にあたり、様々な成果が得られつつある（根拠資料参照）。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・各教員の専門分野が多岐にわたる
	【特色】 ・それぞれの専門分野を活かした研究を実施するとともに、戦略研究プロジェクトなどを通して、分野横断的な活動をおこなっている
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・なし
根拠資料名	・平成 29 年度東京農業大学大学戦略研究プロジェクト研究成果概要

3. その他に関する総合的事項

	①
目 標	様々な地域を対象とした「地域づくり」プログラムの実施
実行サイクル	____1____年サイクル（平成 30 年～ 31 年）
実施 スケジュール	(1) 学科教員が個人的に実施する地域連携プログラムを推奨・支援する。 (2) 学科として組織的に実施する地域連携プログラムへの参加を促し、学生への教育にフィードバックする。
目標達成を測 定する指標	(1) 地方自治体等と共同研究を推進するための補助金等の獲得状況 (2) オープンキャンパス等における活動成果の公表状況
自己評価 (☑を記入)	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	各教員の活動エリアは熊本県阿蘇地域、長野県小谷地域、福島県鮫川村、岩手県・宮城県沿岸地域など、多岐にわたっている。学科としては特に群馬県川場村との連携が盛んであり、学外実習を実施するとともに、個人や研究室レベルでも頻繁に行き来している。学生に対してはポータルや講義・演習を通じて、これらの活動への積極的な参加を呼びかけており、行き先や活動内容に応じて数名～20 名程度の学生が参加している。活動成果の一部はパネル化し、オープンキャンパス等で一般に向けて公表した。さらに、学科 HP において、学科ニュース・研究室ニュース・学科ブログ・地域創成最前線(ポスター集)といった項目を立て、地域連携を含めた学科の活動内容を公表している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・学科及び各教員の地域連携プログラムを積極的に奨励・支援することで、研究・教育活動を活性化している。
	【特色】 ・地域創成科学科の設立目的である「地域づくり」に向けて、実践的かつ科学的な活動をおこなっている。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・なし
根拠資料名	・学科ホームページ